第23回
日本血液学会北陸地方会
プログラム

当番会長　高　野　康　雄

期　日　　平成17年7月9日（土）午後2時より

会　場　　石川県立中央病院健康教育館小会議室
（金沢市鞍月東2丁目1番地　TEL(076)237-8211）

○一般演題は1題7分、質議応答は3分です。パソコン発表で行います。下記の2通りの方法から選んで下さい

1　事務局のパソコン：事務局よりマッキントッシュ (OS X, PowerPoint2004) とウィンドウズ (WindowsXP, PowerPoint2003)の2種類のパソコンを用意します。発表用データをCD-RまたはUSB接続対応フラッシュメモリで用意して下さい。事務局のパソコンへの取り込みは、13時～13時45分の間に行います。時間厳守でお願いします。

2　各施設のノートパソコンの持ち込み：プロジェクタ接続ケーブルは、HD (3WAY) 15pinオスまでを事務局で用意します。これよりパソコン側のケーブルが必要なときは各施設で用意して下さい (特にマックは注意！)。データの動作確認を済ませ、発表の30分前までに用意して下さい。発表時のパソコン操作は各施設でお願いします (発表者はパソコンの操作ができません。不測の事態に備えパソコン操作に詳しい方にお願いします。)

7月7日木曜日までに1 (MacかWinも) または2のいずれの方法で発表するかを事務局までお知らせ下さい (hokuriku@med3.m.kanazawa-u.ac.jp)。

発表データファイルのファイル名は、演題番号・所属・演者がわかるように簡潔に付けて下さい。(例：7富山医薬大1病高野)

○全て個人会員ですので，入会希望の方は，当日受付にて改めて入会の手続きをお取り下さい。年会費は下記の通りです。なお，当日出席できない方で入会希望の方は，下記の事務局までお申し込み下さい。多数の入会をお願いいたします。

年会費　医　　師　1,000円
　　医師以外　　500円

事務局　〒920-8641 金沢市宝町13番1号
金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学内
TEL　(076) 265－2275
e-mail: hokuriku@med3.m.kanazawa-u.ac.jp

○本地方会では、平成11年4月から下記のように日本血液学会血液専門医更新の際の点数が認められました。

参加　2点、発表（筆頭）5点、発表（その他）2点

14：00　開　会　の　辞　　富山医科薬科大学第一病理　　高　野　康　雄

14：05　座　長　　石川県立中央病院血液免疫内科　　山　口　正　木

1. 骨髄低形成を呈した難治性白血病に対して施行した臍帯血移植の2例（57歳女性、65歳男性）

金沢大学大学院細胞移植学　林　朋恵、高見　昭良、奥村　廣和、中尾　眞二
金沢大学付属病院高密度無菌治療部　山﨑　雅英、朝倉　英策

両者とも初回寛解導入療法後に芽球の残存と著明な骨髄低形成を認めた。血縁ドナー不在のため、緊急避難的に臍帯血移植を行った。その後1年以上寛解を維持している。骨髄低形成非寛解例に有効な治療法と考えられる。

2. 著明な肝脾腫を伴った感染症関連血球貪食症候群の1例（63歳男性）

石川県立中央病院　臨床研修医　真川　孝治
同　血液免疫内科　小谷　岳春、中村　喜久、山口　正木、上田　幹夫
同　消化器内科　大森　俊明

腹痛と発熱で入院となった。著明な肝脾種があり、骨髄所見等より血球貪食症候群と診断した。抗生物質の投与のみで速やかに軽快。細菌感染症関連の血球貪食症候群と考えられた。

3. 高齢者白血病の治療について（100歳男性）

真生会富山病院内科　刀塚　俊起

成人白血病の治療成績は向上したが、高齢者白血病の治療成績は極めて不良である。高齢白血病は増加しており、人口10万人対の死亡率は85歳超では40を超えている。AMLの発症中央値は63歳前後となって来ているが、高齢者の治療現場のエビデンスは必ずしも満足のいくものではない。100歳の症例を通して治療の是非などについて討論をお願いしたい。

4. 複合型後天性凝固因子インヒビターの1例（81歳男性）

富山県立中央病院内科　荒幡　昌久、彼谷　裕康、黒川　敏郎、吉田　喬
金沢大学大学院細胞移植学　林　朋恵

複数の凝固因子活性低下と複数の凝固抑制因子の検出がみられる複合型後天性凝固因子インヒビターの1例を経験した。本邦での同様の症例報告はこれまで2例のみ。原因検索中だが、自己免疫疾患、悪性腫瘍の存在は現在のところ否定的である。

14：45　座　長　　福井大学医学部第1内科　　岩　崎　博　道

5. 骨髄移植後の物語り

NTT西日本北陸健康管理センター　北尾　武、野上　裕子、本東　美鈴
石川県立中央病院血液免疫内科　山口　正木

Yさん、50歳、男性。人間ドックでAML発見され妹からのBMTを受け回復し仕事に復帰したが・・。H君、31歳、男性。入社4年でAML発症。妹からのBMTを受け仕事に復帰したが・・。

6. 画像解析ソフトを用いた免疫固定法による血清微量M蛋白の検出

国立病院機構あわら病院研究検査科　櫻田　浩美、齋藤　由美、中嶋　秀行
同　内科　酒巻　一平、津谷　寛

多発性骨髄腫におけるM蛋白の消失確認はCR判定において最も重要な項目である。私たちは画像解析ソフトScion Imageを用いて、免疫固定法における微量M蛋白を検出する方法を考案し、M蛋白消失と判定されていた検体で有用性を認めたので報告する。

7. 腎内腫瘍を伴った乳児白血病の一例（8か月男児）

金沢大学大学院医学系研究科小児科　伊川　泰広、馬瀬新太郎、前馬秀昭、
犀川　太、小泉　晶一
金沢医科大学小児外科　増山　宏明、河野　美幸、伊川　廣道

急性胃腸炎で紹介医を受診した際に軽度の貧血および血小板減少、末梢血中の芽球の出現、LDH高値が認められた。腹部MRIにて左腎上極に25 x 36 x 25 mmの充実性腫瘤を認めた。

8. 急性骨髄性白血病 (M5b) の親子発症例 (父：71歳、娘：38歳)

金沢医科大学血液免疫制御学　中島　章夫、下山久美子、澤木　俊興、
唐澤　博美、河南　崇典、福島　俊洋、
川端　浩、正木　康史、小川　法良、
廣瀬　優子、梅原　久範

38歳のAML (M5b→M2) 女性。第3再発期に非寛解期、血縁者間、HLA2座不一致のBMT/PBSCTを施行するが、その後再発死亡。父71歳でAML (M5b) を発症。親子発症例を報告する。

15：25　座　長　　富山医科薬科大学第3内科　　村　上　　純

9. HBV混合感染を来したHIV感染症患者に対するHAARTの経験

石川県立中央病院血液免疫内科　　小谷　岳春、中村　喜久、山口　正木、
上田　幹夫

HBV混合感染者に対する抗HIV療法として、3TC (lamivudine)とTDF(tenofovir disoproxil fumarate)の両者を併用する投与方法が注目されている。当院でも3例のHBV混合感染者に対して3TC・TDFを含んだHAART療法を行っており、その成績を紹介する。

10. 同種末梢血幹細胞移植後にPneumatosis cystoides intestinalisを発症した急性骨髄性白血病(AML, M2)の1例（46歳男性）

福井大学医学部第一内科　　荒井　　肇、吉田　　明、根来　英樹、
河合　泰一、岩崎　博道、上田　孝典

AML(M2), t(8,21)の第二寛解期において妹をドナーとして（HLA complete match)、同種末梢血幹細胞移植を実施した。その後、腸管GVHDおよびPneumatosis cystoides intestinalisを発症した症例である。本症は、稀であるが、もし経験された先生がおられれば、質問・コメントを頂ければ幸いです。

11. 自己末梢血幹細胞移植後に髄膜浸潤をきたしたIgA-λ型多発性骨髄腫の1例（63歳男性）

厚生連高岡病院内科　　杉森　尚美、経田　克則、宮腰　久嗣

多発性骨髄腫では骨病変や髄外腫瘤の神経圧迫による神経障害は多くみられるが、中枢神経系組織への浸潤は稀である。自己末梢血幹細胞移植後に右外眼筋麻痺、嗄声の出現を認め髄膜浸潤と診断した症例を経験した。

12. 膿胸関連リンパ腫の1剖検例

福井県立病院血液内科　　森永　浩次、大森由紀子、南部　祐子、
清水　信繁、羽場　利博

診断のアプローチに難渋し喀痰細胞診から膿胸関連リンパ腫を疑い剖検により診断確定に至った症例を経験したので報告する。

16：05　座　長　　金沢医科大学血液免疫制御学　福　島　俊　洋

13. T細胞受容体遺伝子の再構成を認めた鼻腔のNK/T細胞リンパ腫の1例（26歳男性）

富山医科薬科大学第三内科　本間　崇浩、油野　久美、栗城　葉子、平野　克治、江幡　和美、村上　純、山下ゆみ子、加藤　勤、杉山　敏郎
同　病理部　石澤　伸、尾矢　剛志、高野　康雄

発熱あり、鼻腔腫瘤の生検でNK/T細胞リンパ腫(鼻型)と診断。臨床像・形態所見、CD56およびTIA1陽性などNK細胞の形質を有していたが、サザンブロット法にてTCR再構成を認めた希な症例。

14. ホジキン病寛解中に濾胞性リンパ腫、MALTリンパ腫を発症した1例（74歳女性）

市立砺波総合病院内科　又野　禎也、杉本　立甫
同　臨床病理科　寺畑信太郎

当初ホジキン病と診断され、化学療法と放射線治療で完全寛解となる。3年後頚部リンパ節腫脹が出現、生検にて濾胞性リンパ腫であった。胃にMALTリンパ腫が認められた。リツキシマブ投与にて良好な経過である。

15. 多発性骨髄腫に対するdouble autologous PBSCT後にCD4 陽性リンパ球数の低下の遷延化に伴って種々の感染症を併発した1例（64歳女性）

黒部市民病院内科　高松　秀行、山内　博正、高桜　英輔

骨髄腫に対するdouble autologous PBSCT後にCD4 陽性リンパ球数の低下の遷延化に伴って種々の感染症を併発した。凍結保存してあった自己リンパ球輸注により、さらなる日和見感染の併発を回避しえた。

16：35　総　　会

16：50　教　育　講　演

司会　富山医科薬科大学第一病理　　高　野　康　雄

「悪性リンパ腫の病理診断」

岡山大学大学院医歯学総合研究科病理病態学講座　　吉　野　　正

18：00　閉　会　の　辞

富山医科薬科大学第一病理　　高　野　康　雄